

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

一口メモ

▼長淵
正面口の橋の下、澄み切った長淵が奥深い溪谷を感させる。百詰とも、二
百詰とも言われる峡内一
長い淵だが、一九八八年
の大洪水以降、土砂が埋
まり浅くなった。以前は
岩の飛び込み台があった。
今は冷たい水に足を浸す
カップルやカヤック体験
者を迎えている。

「ガイド育成講座」の学生4人 自然体験学習で三段峡を案内

広島修道大学ひろみらプロジェクト「知って、学び、遊ぼう！安芸太田町」が8月23日、広島市立大塚小学校の親子12人が参加して三段峡で開かれた。「さんけんガイド育成講座」を受講した学生4人が、アマゴのつかみ取りや自然体験学習をサポートした。

さんけん 修道大プロジェクトを支援



三段峡でガイドする修道大の学生

さんけんメンバーは、三プレ体験活動をした。さん回のガイド育成講座を実施し、学生は本番に備えて、安芸太田町の小学生ら七人とマゴの調理指導や学生が考えた体験メニューを具体化

出来るようサポートした。子供たちは用意されたプールでアマゴをつかみ取り、恐る恐る竹串に突き刺した。焼いたアマゴと安芸太田名物「漬物焼きそば」を頬ばった。午後からは学生が三段峡のガイドを担当。たたら製鉄の「カナクソ」や橡餅の「トチノキ」などに触りながら、歴史や自然を案内した。
ガイド講座は学生に、自然を見つめる視点と参加者を思いやる技術を伝えるのが目的。学生は「安芸太田に關わった四年間の集大成になった」「子供たちに喜んでもらったのが何よりうれし」と手応えを感じていた。

里山の仲間たちと交流 「学び、楽しむガイド」探る



小林副理事長（左）の説明を聞くツアー参加者

中山間地域で活動する人たちで組織する「ひろしま里山チーム500」が企画する初めてのツアー「あの政策研究所一人の計八人。本宮理事長と小林副理事

ら学び楽しむ三段峡ガイドの工夫」を話し合った。

町の恵みを堪能

盛り上がったワークショップの後、バーベキューでアマゴなど安芸太田町の恵みを堪能、親睦を深めた。ツアーによって広島の里山で活動する仲間たちと新たな交流が生まれた。さんけん会員の中本祥二さんは「外部の意見が新鮮だった。また参加したい」と笑顔だった。

南峰と歩く② 梅崎（つがさき・とがさき）

梅崎は正面口から約十分。看板はなく、正確な場所を知っている人は少ない。

を望む、此処が梅崎である」と、熊南峰の三段峡案内（一九二六年）にある。

■目印 川中の兜石

音が静まって何となく救はれたやうな落着を覚えて来る、と、河は程なく左へ曲がって正面に『五立』の險崖

梅崎のツガ（梅）が、枝を伸ばした先の川中に、兜石がある。私は南峰の文献にその名称を見つけていな

い。梅崎の目印として後に付けられたと想像する。いっしか兜石の方が有名になったのだろう。

■峡内のゆりかご

「つがさき」と呼ぶが、南峰は「とがさき」と仮名を振っている。トガはツガの別名で、地名では鎌倉期の明恵上人が日本で初めて茶の

南峰の監修と思われる地図で梅崎を「梅崎」としたものがあ。梅尾を「梅尾」と書いたのではないか。「とがさき」が相応しいと個人的には思う。

梅崎は穏やかな空間である。春には花々が咲き、夏は河鹿の声が涼しい。寒くなると小鳥がねぐらにする三段峡のゆりかごだ。南峰も「平和の象徴」と表現している。

小径歩く時間旅行者

松尾 俊孝さん

この人



子供の頃からの三段峡ファン。熊南峰が生きた時代の美意識・文人趣味に思いを馳せ、名勝の風景を捉え直す。

南峰が残した文献を丹念に読み返し、幾度となく足を運んで現場を確認している。

風景に溶け込む小径を歩きながら「三段峡は南峰の作品だ」と話す。時代の流れの中で変化した今の美意識とは違う視点で見ると、溪谷や断崖は百年後の今、新鮮な感動がある、と説く。南峰との二人三脚、「三段峡の時間旅行者」とでも呼ぼうか。(炎)

(松尾 俊孝)